

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

プロジェクト名	住んでよし、訪れてよしのまち実現プロジェクト ～共生のまち やわた～		実施期間	平成25年度～ 平成30年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>男山地域をはじめ市民自治の基礎である地域コミュニティの希薄化が進捗しており、加えて障がい者や高齢者など社会的に弱い立場の人々を取り巻く問題も深刻化している。</p> <p>特に男山地域再生の取り組みについては、認知度が上がってきているため、取り組みを継続することで地域活動への潜在的な担い手を掘り起こし、自立できるよう支援していくことが重要である。</p> <p>また、多様な生き方を尊重し合い、「支え手側」「受け手側」という二分法ではなく、地域に暮らすあらゆる人々がそれぞれの役割を持ち、共に輝きながら生きていけるまちづくりをすすめる必要がある。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「男山地域の再生」、「地域のつながりの再生」、「男女・障がい者がともに輝ける地域社会の構築」をキーワードに八幡の地域共生を実現。 ・男山地域の再生について住民等、京都府、UR都市機構及び関西大学と協働し、将来を見据えた快適なまちづくりを促進するため、男山地域再生基本計画に基づき、具体的な取組を順次進める。 ・わたしたちの談話プロジェクトをはじめ、「住民との協働」による事業の実施 ・障害者に対する身体的なバリアだけではなく、健常者との心のバリアを取り除く取り組みを実施。 							
	総事業費（千円）	27,754	本年度事業費（千円）	22,654	交付金額（千円）	10,787		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村 実施事業	市民協働活動センター運営費	交付対象事業	地域コミュニティ希薄化の解消に繋がるよう、地域住民が安心して暮らすための拠点を確保する。		団体活動室利用件数 199回 2,029人			
住民 協働 事業	地域生活支援拠点事業費	交付対象事業	共生社会の実現を図るため、障害者の相談支援や居室確保のための事業を委託する。		相談支援利用件数 2,569件 居室確保利用件数 462件			
	男山地域再生・地域包括ケア事業助成費	交付対象事業	男山団地の高齢者が安心して住み続けられるように、男山団地内に地域包括ケア複合施設が整備された。特養、ケアハウス、24時間訪問看護や健康維持の体操教室等に使用する拠点に対する助成を行う。		地域包括ケア事業に対する助成			
	地域福祉推進計画事業費	交付対象事業	福祉課題に地域で取り組む基盤の強化を図るため、コーディネーター配置及び談話・談笑ができる座談会を開催する。		談話 8回			
	可燃物・不燃物収集費（ふれあい訪問ごみ収集）	交付対象事業	1人住まいの高齢者宅等に個別訪問・収集を実施する。		登録者数 150人			
	男山地域再生事業費	関連事業	京都府、関西大学、UR都市機構と連携して、「住みたい、住みつづきたい男山」を目指して男山地域再生に取り組む。		情報紙（だんだん通信）毎月1回発行 ワークショップ開催 等			
住民が 取り組む 事業								
成果 指標	成果指標の目標数値	男山やってみよう会議参加者数 250人		成果指標の実績値 (31年4月1日時点)	285人			
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標数値より増となり、男山地域に関心を持つ人が増えてきていることが伺える。				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

①	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標 ②	成果指標の目標数値	ふれあい訪問ごみ収集 125人		成果指標の実績値 (31年4月1日時点)	150人
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標数値より増となり、事業の定着が伺える。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	<p>男山地域まちづくり連携協定に基づき、京都府、UR都市再生機構、関西大学及び本市が地域住民と連携・協力したまちづくりに取り組み、「だんだんテラスの会」による住民との交流、意見交換を実施するなか、絆ネットワーク構築支援事業やふれあい訪問ごみ収集の実施等により、男山地域の住民が安心して過ごせる取り組みを行った。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。</p>				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	男山やってみよう会議を通じて、幅広い世代が集い、まちづくりの方向性や具体的な取組について議論し実行していくことで、男山地域再生に寄与した。			
	府と市町村等との連携に資する成果	男山地域まちづくり連携協定に基づき、京都府、UR都市再生機構、関西大学及び本市が地域住民と連携・協力したまちづくりに取り組み、「だんだんテラスの会」による住民との交流、意見交換を実施し、男山地域再生に向けた取り組みを進めた。			
	住民の自治意識を高める成果	ふれあい訪問ごみ収集により、1人住まいの高齢者の孤独や不安を払拭し、自治意識を向上させた。			
	リーディング・モデル成果				
	広域的波及成果				
	行財政改革に資する成果				
	その他の成果				

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：八幡市

- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは－を記載すること。